

〇〇様

こんにちは、日本臨床漢方医会です。
すっかり秋めいてまいりましたが、お元気でいらっしゃいますか。

先のメールでまたもや「漢方薬が保険で使えなくなるかもしれない！」という動きがあったことをご紹介いたしました。

健康保険が使えなくなれば“自費”となった漢方薬は価格がおそらく10倍以上にもなり、治療の機会が減ってしまう事態が予想されます。

このため当会は「漢方薬の保険適用継続を要求する決議」を行うとともに、今後も漢方の擁護ために活動を継続してまいります。

漢方が保険から除外されないためには、皆様の
“おひとりおひとりの声”が何よりも大きな力となります。

また、漢方薬が保険の適用となるためには、
政策を決める国会議員の方々の協力も必要となります。

この度、「日本の誇れる漢方を推進する議員連盟」の国会議員の方々より、メールマガジンへのご寄稿をいただきました。

議員の方々が「漢方をどのように考えていらっしゃるか」については、皆様も大変興味深いものであるかと存じます。

今回は、5名の議員の方々のご寄稿を掲載させていただきます。
よろしければ最後までご覧下さい。

なお、当会は特定の政党を支持している訳ではありません。
このため政党名は紹介いたしませんので、ご了承ください。

- 【1】私と漢方薬 衆議院議員 橘 慶一郎
- 【2】漢方の未来に向けて 衆議院議員 牧島 かれん
- 【3】漢方活用で日本の医療の向上と地域の活性化のために
衆議院議員 金子 恭之
- 【4】私と漢方 参議院議員 三原 じゅん子
- 【5】祖母直伝の漢方の心 衆議院議員 河村 建夫

【1】私と漢方薬

十年位前から、かかりつけの医院で漢方薬を「かぜ薬」や「はら薬」と併せて処方されるようになりました。

患者の立場からすると、効き方がじわじわと柔らかく、長続きする感じがして、頼りがいがあります。

西洋医学の薬をうまく補い、効果を高めていると思います。

最初の国政選挙は長丁場で、疲労から胃腸が弱ってきた時、処方して頂いた「補中益気湯」には本当に助けられました。

国政に関わるようになって、自由民主党で議員連盟を作る話があり、早速、申し込みました。

私の出身の富山県は元来「売薬」が伝統産業であり、国立富山大学の和漢薬研究所を始め、漢方薬を製造するメーカーも立地している事からも関心を持っていました。

議員連盟で色々と漢方薬の現状を伺い、ほとんどの大学の医学部で漢方薬についての講義がされている事、

原料を中国等からの輸入に頼っており国内の生産拡大が課題である事、世界に向けて「日本の漢方」を発信していきたい事など、認識を深める事ができました。

富山でも、原料栽培へのチャレンジが始まりました。

自分の健康を支えてくれる心強い味方の漢方薬。
是非、臨床で多くの方にその良さを分かちあって頂きたいと思います。

日本臨床漢方医会の活動に大いに期待しております。

衆議院議員 橘 慶一郎

【2】 漢方の未来に向けて

小さい頃に、祖母からよく飲まされていたのは「子供のコーヒー」です。

あえて「子供の」とついている理由は、コーヒー豆ではなく、ドクダミの葉っぱを煎じた飲み物だからです。

庭に生えたドクダミの葉を乾燥させ、祖母がよく作ってくれました。

ドクダミ茶ではなく「子供のコーヒーできたわよ」と言われるとそれだけで特別な飲み物という気がして、胸が高鳴りました。

こうした習慣は今の私にしっかり根付いており、風邪気味だと感じたら、まずは漢方薬のお世話になっています。

家庭の中で東洋医学の力を借り、漢方を身近に感じることはとても大切なことだと考えています。

現在私は横浜薬科大学で客員教授として
一年生を対象とした特別授業を行っていますが
漢方を専門とする学生もおり、頼もしく感じています。

また、神奈川県では「未病を治す」というキーワードのもと
具体的な取り組みがスタートされたところですが
県民からの「漢方についてもっと知りたい」
という声が大きくなっていることを実感しています。

特に、私の地元である県西地域は、
箱根や湯河原へ、温泉を楽しみにいらっしゃる観光客も多く
漢方と温泉治療をセットにして
発信していければと構想は広がります。

そして何よりも、大きな課題は
いかにして良質な漢方を確保していくか、ということです。

耕作放棄地の問題とも併せて、国内での生薬栽培へ
国としても力を入れて取り組んでいけるよう
私も力を尽くしていきたいと思っております。

衆議院議員 牧島 かれん

【3】 漢方活用で日本の医療の向上と地域の活性化のために

患者の体質や体調に合わせて処方される漢方薬は、
現代医療に必要な不可欠なものとなっています。

特に、作用が穏やかであり、女性やお年寄りに
優しい薬だと思います。

一方、その原料となる生薬は、ほとんど中国からの輸入に依存しており
カントリーリスクなどを考えると、安定的に確保するために
国内での栽培を進める必要があります。

私の地元、熊本県球磨郡あさぎり町でも、数年前から
ミシマサイコの栽培が進められています。

温暖な気候や生産者の努力により、順調な栽培が進み、
栽培規模も拡大し、農業の担い手育成にも繋がっています。

薬用植物栽培は、耕作放棄地や中山間地の活用などの
観点からも注目されています。

安部政権では、地方創生に向けた取り組みを始めています。

地方にとって人口減少や超高齢化が緊急かつ深刻な問題である中で、
将来に夢や希望が持てる、誰もが安心して暮らすことができる
地域作りに取り組むものです。

とりわけ薬用植物栽培は、地域の活性化や地域特産物として
地域おこしなどに繋がる可能性を秘めています。

日本の医療の向上と地域の活性化のために、
薬用植物の国内栽培に向けた取り組みが、
全国で進められることを期待しています。

私も、その一端を担ってまいります。

衆議院議員 金子 恭之

【4】 私と漢方

私と漢方との初めての出会いは、もう随分以前のことになりますが、
今回はがんの手術後の体調変化に悩まされた時のこと
をお話したいと思います。

診断は腺癌で、大きな手術になりましたが、無事成功し、リハビリの
甲斐もあり、仕事への復帰へもなんとか果たすことが出来ました。

ところが、偏頭痛や動悸、不眠を始めとする様々な症状に過度のストレスを感じる日々が始まったのです。

そんな折、主治医より勧められた漢方薬が症状の緩和にとても助けになりました。

現在、我が国で行われている西洋医学と漢方医学、両方の視点から患者を診て、その人にあった薬を処方するという医療システムは、世界的にみても非常にまれなことです。

そして、漢方は今や科学的な根拠に基づく医学といえるようになりつつあります。

花粉症の改善から美容まで幅広い分野で個々に合わせた処方ができることは非常に大きなメリットと言えます。

ところが、医療用漢方製剤の原料生薬について、天候などにより収穫量が大きく変動し、大量生産が難しい天然の資源である以上、今後も継続的な薬価下落と原料生薬の価格上昇が続くと、安定供給ができなくなる恐れがあります。

その原因の一つに、漢方薬に必要な原料の80%以上は中国からの輸入に頼っていることが挙げられます。

私は医療問題対策をライフワークとして取り組ませて頂いておりますが「日本の誇れる漢方を推進する議員連盟」の一員としても我が国で独自に発展した漢方を守り、さらに発展させていくことに全力を尽くして参りたいと考えております。

参議院議員 三原 じゅん子

【5】 祖母直伝の漢方の心

医食同源という、世に知られた熟語があります。

私は幼少時、根っからの仏教徒の祖母ふでから
鳥や動物をむやみに殺傷してはいけない、
人間が生きるための食べ物としてどうしても必要な物は回り回って
生かされるのだから、心から感謝して食べなさいと教えられました。
病気を治す医療と生命を養い、健康を保つ食事の本質が同じ
ということを学んだそもその初めです。

私が栄養のバランスに配慮し、食事の度に栄養素別に5色に分けて
食材をノートする専用の手帳を持ち歩くようになったのは、
ふでばあちゃんの影響です。

漢方にいう未病の治療にあたるかもしれません。

わが国の漢方の歴史は養老律令の発布された奈良時代に遡りますが、
明治維新政府の西洋医学推進の波に押し流されながらも
民間療法として生き続け、今では現代的西洋医学と
和漢方といえる東洋医学の統合が進んでいます。

病気を治すのではなく患者を治すという漢方思想に強く共鳴します。

私はいま成育基本法成立を目指す成育基本法推進議員連盟会長として
胎児から思春期までの子ども達の心身共に健全な発達を
大局的立場から支援する体制の確立に努めています。

漢方に言う「心身一如」は、為政者も忘れてはならぬ鉄則です。

衆議院議員 河村 建夫

◆編集後記

10月には、厚労省の来年度予算概算要求の審議に入り、漢方薬の保険適用について話し合いがなされるようです。

漢方薬が安心して利用できるかどうか、今後の動向をしっかりと見守りましょう

本会ではメルマガ配信をはじめ、ホームページやフェイスブックページでも漢方情報をお届けしております。

時節柄ご自愛いただき、健やかに秋をお過ごしください。今回は、通常版の医会メルマガ秋号の配信となります。

最後まで読んでいただき、有難うございました。また、以下のホームページもご参考になさって下さい。

日本臨床漢方医会



発行元：日本臨床漢方医会事務局

ホームページ： <http://kampo-ikai.jp>

Facebook： <http://www.facebook.com/kampoikai>

お問い合わせは、 jim@kampo-ikai.jp まで

当メールは署名もしくはHPでご登録いただいた方にお送りしております。

アドレス変更&配信停止はこちらのページからどうぞ。

↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓

http://kampo-ikai.jp/web_henko

